

報告書



阪神まち大学 まちづくりプロジェクトコース

このプロジェクトに参加した動機・きっかけ

子どもたちに
人とのふれあいの**楽しさ**や
地域のつながりを
実感してもらいたい

交流の中で
企画力、運営力、
コミュニケーションスキルを
培いたい



チームの方向性

企画～実施まで学生が主体となる

交流を意識したオリジナリティのある企画づくり

子ども目線を持ち、子どもに寄り添った企画運営

活動報告

□ 野外活動 謎解きの運営協力

〔8/16（火）〕

夏に行われた野外活動のお手伝い

□ “子ども会大会”の子ども向け

プログラムの企画〔11/27（日）〕

子ども会大会（野外イベント）

遊びブース・メインステージの企画運営、
宣伝チラシ作成

主催：西宮市子ども会協議会
共催：西宮市教育委員会

第72回 西宮市

こども会 大会

11/27（日） 10:00～13:00
受付 9:30～
※雨天中止

にしのみやしやくしよしゅうへん
西宮市役所周辺

- ・スマートボール
- ・おてだま
- ・くじびき
- ・まとあて
- ・さかなつり
だいがくせい
大学生とジュニア実行委員
がやるよ！
- ・あそびんご
- ・文化サークル発表
はっぴょう
- ・やさい販売
- ・むかしあそび
- ・スーパーボール

あそびんごでは、みんなで景品をゲットしよう！！
キッズニア招待券など

しょうぼうしゃも
やってくる！？

イベントに関する
お問い合わせ 0798-31-5415
西宮市子ども会協議会事務局

火・水・金 9:00～12:00/12:45～14:00
〒662-0843 西宮市神祇官町2番6号
教育委員会神祇官分室2階
nishinomiyaodmokai@yahoo.co.jp

DANGO
6 29 36 46 72
10 17 41 52 67
1 30 36 61
5 19 38 54 70
14 25 43 49 72

子ども会大会当日までの学生の活動について

■活動頻度

9月～11月の期間で、学生のためのオンラインミーティングを **1週間あたり2～3回**の頻度で定期的に行ってきた。

■活動時間

勉強との両立をするためにも、全員が時間の空いている**夜の9時以降**に多くミーティングを**約2～3時間**かけて行った。

子ども会大会当日までの学生の活動について

■活動内容

～9月～

主に子ども会大会でのブースやステージでのビンゴについて、学生同士で**意見を出し合いながら企画を練った。**

～10～11月～

子ども会さんからいただいた意見を踏まえながら**企画を詳細に練り**、それを実現するための**用意する物や具体的な流れについて確定**させていった。

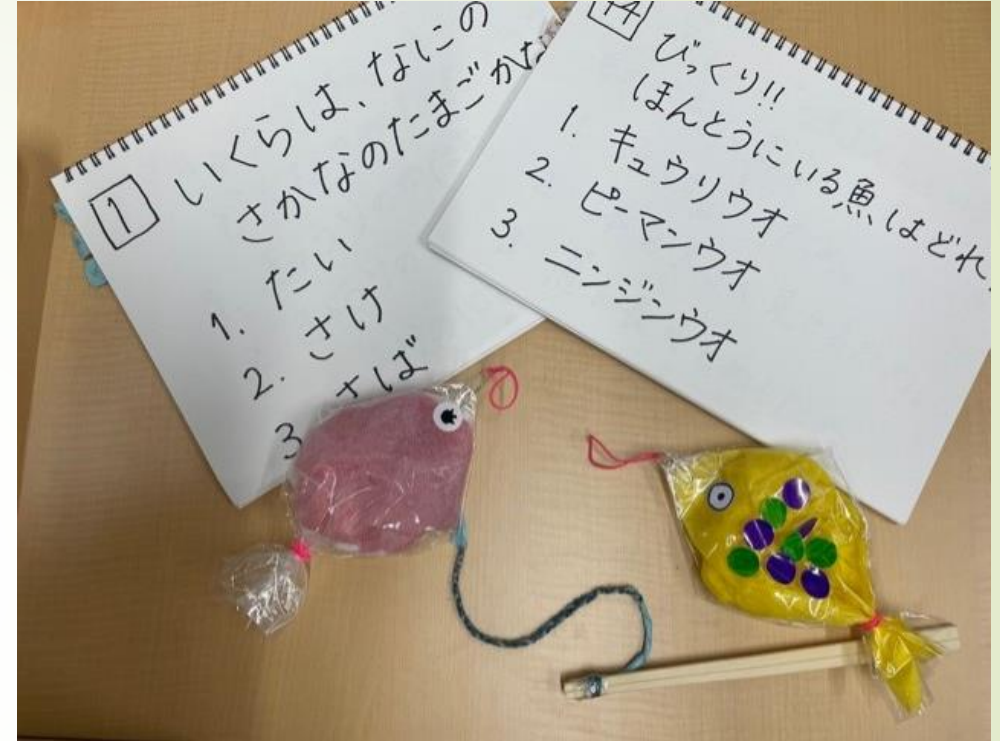
事例紹介

～さかなつり～

【企画内容】

- ❑ 20秒以内に魚を釣り、
魚の番号のクイズに答えてもらう
- ❑ 低学年、高学年用で区別
- ❑ 魚が釣れた→ポイントゲット
+クイズに正解→ポイントアップ
- ❑ 参加者は景品ゲット





工夫した点

さかなつり→一つ一つの表情を変える、難易度も繰り返し調整、安全確保
クイズ→選択肢を用意し、分かりやすさを重視

事例紹介

～あそビンゴ～

- ➡ 数字ではなく**果物&野菜**を用いる
- ➡ 司会進行は学生
- ➡ ビンゴカードに空欄のマス

子どもたちが好きな果物or野菜の

シールを貼ってもらう



企画の効果

さかなつり

- 初対面の人と「楽しい」を共有できる
- 親子間のコミュニケーションが生まれやすい
- 主催者である学生自身も楽しめる

あそビンゴ

- 子ども会大会の締めにあわしいイベント
- シールを用いることで数字よりも盛り上がる



当日の様子

■ さかな釣りのブース

会場の中で一番の長蛇の列

■ あそビンゴ

アイスブレイクの時から子どもたちの活気が感じられた。

全体を通してとても盛り上がりがあった。



期待される効果

- 企画運営する側(学生)と参加してくれる子どもたちとで**楽しさ**を共有する機会
- 子どもたちに**居場所**があると感じてもらえるきっかけになる
- 地域をより盛り上げることができる可能性

活動の成果

私たち学生にとって

- 企画・運営を通じた学生自身の成長
- 関わってくださった子ども会の方々や、こみサポの方々への感謝
- 企画→実行までの地道な過程の大変さを学ぶことが出来た。

感想 1

私たちはまちづくりプロジェクトコースでの取り組みを通して、相手の目線に寄り添って考えることの難しさを痛感した。

私たちは、このプロジェクトが始まってすぐの8月に謎解きのイベントにも参加させていただいた際に、私たち大人が面白いと感じたなぞなぞが思うように子どもたちに伝わらず、子ども目線で考えることの難しさを感じた。そこでの反省点を踏まえて、11月の子ども会大会では学生が面白いと感じるものになりすぎないように、子ども目線を徹底して企画してきた。

魚釣りにおいては、時間内に魚が釣れなかった子どもにも学生が手伝いながら一匹は釣ってもらうようにした。その他にも、子どもがクイズを解きやすいように3択問題にしたり、魚のデザインを子どもが好きそうな可愛いものにするなど、子どもの目線に寄り添った。

あそびンゴについても、ただのビンゴでは子どもが数字になかなか興味を持てないと考え、マス野菜や果物など会話にもつながりやすく興味を持ちやすいように工夫した。

これらの取り組みを通じて、子ども会大会ではかなり子どもに楽しんでもらえたという手応えを感じることができた。

感想 2

私たちは、実際に企画したアイデアを実際に実施することの大変さを痛感した。

私たちは、子どもの目線になってアイデアを練る段階には単純に楽しさを感じていた一方で、それを実施するまでの地道な取り組みに苦労した。もちろん自分達学生だけで実現するものではないので、子ども会さんの方々であったり、奥西さんや学生同士など数多くの人たちとの連携をとっていく過程で、いかに私たちが多くの人たちに支えられているのかを感じた。だからこそ責任も大きいし、なかなか連携をスムーズには進められなかった点もあった。

このような点は、社会に出て特に重要になってくる点であると就職活動を進めるにあたってより感じるようになったので、この反省を活かしていきたい。